



# News Letter

6

昭和女子大学 現代ビジネス研究所 | 昭和女子大学 現代ビジネス研究所 | ニュースレター |

Greeting

## 働き方の多様化の時代

昭和女子大学現代ビジネス研究所  
所長 八代 尚宏

8月3日の安倍内閣改造で「働き方改革」を担う特命担当相が新設された。これは少子高齢化が進む下での成長戦略の中核として、従来の固定的な雇用慣行を大胆に改革し、長時間労働の改善や、新たな成長分野への雇用の移動を進めることを意図している。80年代までの高い経済成長の下で企業組織が持続的に拡大する時代なら、新卒採用された会社内でひたすら働くことが、社員と組織の双方にとって望ましかった。しかし、90年代以降の低成長と高齢化が進む社会では、特定の会社だけに依存する働き方は、社員にとってリスクが大きなものとなっている。また、会社にとって、他の組織でも十分に通用する多様な人材こそが必要とされる時代となっている。



現代ビジネス研究所では、企業や行政機関等で働くビジネスパーソンが、会社の業務とは直接、関係のない、独自のビジネスモデルを考案する。それを関係する大学教員や学生有志と協力して、多くのプロジェクトを実施している。ここで現役女子大生のフレッシュな感性や発想力と、現場経験の豊富な企業人材との組み合わせは、多くの成果を生んでいる。これをさらに促進し、大学発ベンチャーに結び付けることが、現代ビジネス研究所の大きな目標といえよう。

Outline

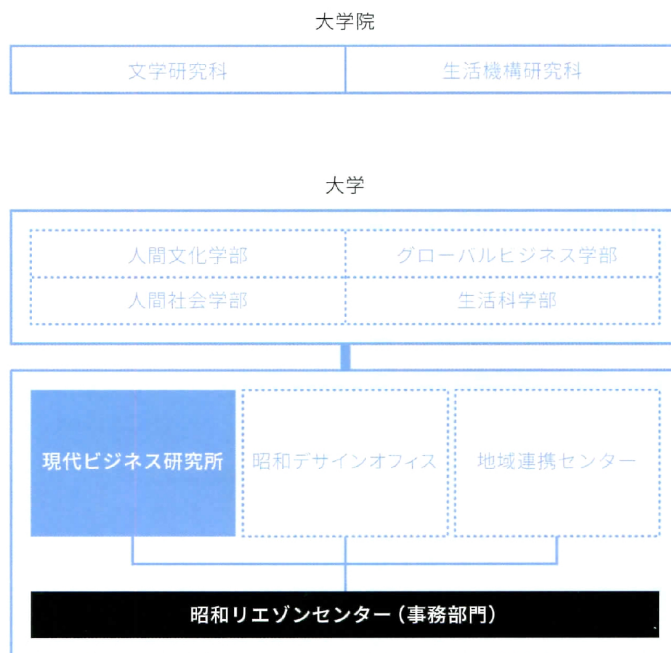
## 「昭和リエゾンセンター」について

発明やものづくりといったハード面が牽引してきた産学連携も、昨今では社会貢献や人材育成等のソフト面における連携へと期待が高まってきています。

昭和女子大学では、オープンカレッジ<sup>※</sup>の講座開講による大学の知の開放から始まり、企業等団体や地域と連携・協働し、教員及び学生がプロジェクトとして課題解決に取り組む、より直接的な社会貢献活動へと形を変え、発展させてきました。

「昭和リエゾンセンター」は、これらの活動を担う「現代ビジネス研究所」、「昭和デザインオフィス」及び「地域連携センター」の活動推進拠点として、2016年4月に発足しました。事務を中心とする様々な支援を行い、昭和女子大学の教育及び研究の活性化を図るとともに、社会的評価の向上に寄与することを目的としています。

※2016年3月末をもって終了



## ▶ 公開講座

日時:2016年5月21日(土)15:30~17:00  
場所:80年館西棟5L44教室  
講師:EYアドバイザリー株式会社 マネージャー  
池田 宇太子氏  
株式会社LIXIL ダイバーシティ推進室 室長  
成田 雅与氏

### 「『ダイバーシティ経営』の最新事情 ～企業が“女性活躍推進”に本気で取り組むとき～」

講義では、ダイバーシティの本来の意味と各企業の取り組み状況が紹介された。最初に、「女性の活躍」に関するキーワードが厚労省管轄の「ワークライフバランス」から経産省の推進する「ダイバーシティ」に変わってきたことを、福利厚生的な意味合いから経済活動としての視点に変わってきていることを意味するとした。

2012年当時、企業をとりまく環境が年々厳しくなる中、ダイバーシティ経営は「多様な人材の活用による組織の創造性・柔軟性の向上」と打ち出されたが、企業にとっての受け取り方は様々であった。本来、ダイバーシティマネジメントは「多様な人材のもつ能力を最大限発揮できる機会を提供することでイノベーションを生み出し、価値創造につなげる経営」だが、これが真に理解できている企業とそうでない企業とで取り組みに差がでていいる。「女性」はダイバーシティの中の性別という一部の軸の話でしかない。先々が見通せない時代に向けての足腰の強化が企業にとって求められる今、これからの日本企業が競争力を高めていくために必要かつ有効な「経営戦略」としてダイバーシティに企業は取り組むべきである。

続いて株式会社LIXILから自社の取り組みの紹介があった。5社合併という企業にとっての大きな変革時に、「バックグラウンドに問わず最高の人材を最高の機会に活用する」という外資出身の社長の号令のもと「LIXIL宣言」が社内外に公表され、当時0.9%であった女性幹部比率を3年で一気に7.8倍の7%にまで押し上げた。社員たちの困惑の中、人材開発部門と社長の強いリーダーシップでこれを実現した話は、驚きであり、会社の本気度の表れと捉えられる事例であった。(文責:研究員 西村美奈子)



## ▶ 研究セミナー

日時:2016年6月25日(土)15:30~17:00  
会場:学園本部館中会議室  
講師:現代ビジネス研究所  
八代 尚宏所長

### 「シルバー民主主義への対応～高齢者ビジネスの活用を～」



坂東理事長が自ら司会を買って出るといっても豪華な雰囲気の中で、八代先生の講演は始まった。一昨日のイギリスEU離脱を受けて、「民主主義とは必ずしもベストな選択をするとは限らないのではないか」という参加者の強い問題意識の中での本日の講演である。

今回は「シルバー民主主義」が抱える課題とその対応について実に分かりやすく講演頂いた。「シルバー民主主義」とは、少子高齢化の進行で有権者に占める高齢者(シルバー)の割合が増し、高齢者層の政治への影響力が増大する現象である。急速に高齢化が進む日本では、社会保障制度の抜本的な改革が先送りされ、年金、医療、介護など高齢者向けの支出が増え、この増大に歯止めがかからなければ、国の財政が行き詰まり社会保障制度が機能しなくなる。

先生は、借金に全面依存の日本の社会保障や日本の債務残高の異常な高さについて言及された後、「シルバー民主主義」のリスクとして、①高齢者の短期的な利益を最優先する政治、②日本の社会保障給付費に関して所得再配分効果の小さな社会保障費の構造、③社会保障に関する高齢者の優遇策を挙げられ、特に②では福祉(年金、医療、介護以外)の1割についてヨーロッパ並みの3割の必要性を説かれた。

また世代間の対立を克服する二つの手法として、①社会保障制度の持続可能性への情報公開、(年金は2割カットすれば50年維持可能)②後代世代への利他主義等を挙げている。

これまでの日本の社会構造システムが今後機能しなくなることに様々な視点から警笛を鳴らし、具体的な提言にまで踏み込まれた本講演はとても有意義であった。(文責:研究員 栗原道明)

## 研究員報告会・交流会

- 2016年3月26日(土)
- 学園本部館大会議室

2015年度の研究助成金採択プロジェクト10件の研究報告会を開催しました。研究員間での共同研究や、本学学生と協働して進めた研究等、様々なプロジェクト研究の報告がありました。報告会后に新研究員をお迎えし、交流会を行いました。



## 研究員・所員交流会

- 2016年7月14日(木)
- 80年館グローバルラウンジ

現代ビジネス研究所研究員・所員交流会を開催しました。所員の先生方の行っているプロジェクトの内容をお聞きしたり、また研究員同士でもお互いのプロジェクト研究について活発な情報交換の場となりました。坂東理事長、金子学長にもご出席いただき、会は盛況でした。新たなプロジェクト研究が生まれることを期待します。



## 研究員サロン

現代ビジネス研究所では、年間を通して「研究員サロン」を開催しています。助成金採択者の中間報告や、研究員自身の研究報告、また本学教員に専門分野についてのレクチャーをお願いするなど、内容は多岐に渡ります。

### 研究員サロン

#### 「中国経済の見方(裏話と現状)」

- 2016年8月30日(火)
- 80年館西棟5S43教室
- 発表者:佐野 良伸研究員

昨年度の「中国ビジネスの現状」に引き続き、2回目の登壇となった佐野研究員。多くの資料を基に、今の中国経済について解説されました。13億の人口を抱える巨大な隣国も、格差経済や労働人口の減少、急激な高齢化など、日本と同様に深刻な課題を抱えていること、また、中国人と日本人の基本的な物の考え方の大きな違いなど“ここだけの話”も随所に盛り込まれ、有意義で楽しいサロンとなりました。



## Information



「現代ビジネス研究所」「昭和デザインオフィス」「地域連携センター」の事務部門を統括する「昭和リエゾンセンター」の発足に伴い、「現代ビジネス研究所」もこれまでの80年館西棟5階(8N-5T42)から1階(8N-1M04)へ引越しをしました。各部署と連携し、今後も研究員、学生のプロジェクト活動を支援していきます。

#### 現代ビジネス研究所開所時間

月・火・水・金	10:00~19:00
木	10:00~20:00
土	10:00~18:00
	(日・祝休所)

# 助成金採択プロジェクト

現代ビジネス研究所では、研究員の研究活動を支援するために、優れた研究に対して研究経費の一部を助成しています。2016年度は審査の結果、下記17件を採択しました。

研究員間での共同研究や、本学学生と協働して進めている研究もあります。各プロジェクトチームには本学教員がアドバイザーとして参加し、学生は豊富な実務経験を持つ研究員と協力しながら、実践的な学びを深めていきます。

年度末には現代ビジネス研究所で報告書をまとめ紀要に掲載するほか、報告会を開催します。(2015年度の紀要はこちらをご覧ください。→ [swubizlab.jp/wp/2015kiyou](http://swubizlab.jp/wp/2015kiyou))

## 2016年度研究助成金採択プロジェクト

研究員名	プロジェクト名
1 新井 卓二	健康経営と大学生に与える影響について
大本 郁子	化粧品ビジネスにおけるコンテンツマーケティング戦略とは？ ～主にデジタルマーケティングの現場から～
2 熊坂 敏彦	日本酒のグローバルマーケティング戦略等についての研究(2)
栗原 道明	地域包括ケアシステムの進展と女性の視点から見た新規ビジネス可能性の探索
甲賀 聖士	ソーシャルビジネスにおける女性参画の実態と 「ジェンダー意識」「社会貢献意識」に関する研究
3 下村 源治	リーダー・アプローチによるフォローシップの実証実験
鈴木 宏幸	インバウンドビジネスにおける新規事業創造プロセスのベストプラクティスの研究
4 澄田 知子	女性の活躍推進政策に関する女子学生の意識調査
高田 かおり	障がい者施設の現場が必要とする意識・知識についての研究
滝澤 智導	「魅力あるまちづくり」を考える～「女性視点」に立ったまちづくりとは～
5 段谷 憲	大規模震災発生に備えた食料備蓄に関する研究
6 鶴沢 真	フリマアプリのマーケットデザイン —フリマアプリ(メルカリやフリル)での買い物行動に関するアンケート調査—
西村 美奈子	ICT企業に働くマチュア世代の女性のセカンドキャリア意識調査とニーズ分析研究
藤村 成弘	規制緩和による産業構造変化 —情報通信産業と電力産業を事例として—
村井 知光	企業と非営利組織のパートナーシップ戦略に関する研究
柳川 伸二	昭和女子大学生の国際協力に関する意識調査
山崎 泰明	“シングル消費”に関するバズ(口コミ)マーケティングの実証研究



在学学生へのアンケート調査を通して健康経営について研究し、現状の職場環境制度の改善点を、学内発表だけではなく、学会(日本ヘルスケア学会等)や経済産業省への提言を目指します。



我が国の代表的な地場産業である清酒製造業が長期的な不況から脱却し、ローカル化からナショナル化、さらにグローバル化への発展の契機と具体的な戦略を探り、企業・産地(地域)・業界の革新策を提起します。



リーダー・アプローチによる実証実験を実施し、フォローシップが組織の競争力に与える影響を明らかにします。



アンケート調査を通じて女子学生の政治に対する意識や考え方を明らかにしつつ、政治過程において若い女性の意見がより反映されやすくなるような仕組みについて検討します。今年度は、選挙権年齢が18歳に引き下げられて初めての国政選挙が行われるため、特に投票行動に焦点を当てた調査を行います。



大規模震災時の被災地域の食料リスク問題を解決するために、「ローリングストック」に焦点をあて、家庭での食料備蓄・非常時の食べものについて検討をおこないます。クックパッドのレシピエールや食品メーカーとも意見交換を行い、研究成果を情報発信していきます。



日本で独自に発達し普及したビジネスモデルとも言えるフリマアプリ。その最大の利用者層である女子学生を対象としたアンケート調査を通して、主要ユーザー層の利用要因や買い物行動の状況を分析するとともに、アプリ利用者と未利用者双方の観点から、マーケットとしての特性を実証的に解明していきます。